

新年あけましておめでとうございます。公益財団法人・豊郷病院は昨年4月に創立100周年を迎えました。盛大に周年記念事業を執り行えればよかったです。が、当院も赤字経営で財政難の折からござんまいと、世界アルツハイマー月間にちなみ「オレンジフエスティバル」と称した祭典を9月20日に開催しました。模擬店や展示ブースを設け、精神科医師にや、小生を含めた滋賀医大軽音楽部のBによるジャズライブなどを催しましたところ患者さんや地域住民を含めて300名以上の参加を頂きました。今年10月目以降も当院が地域社会に貢献し存続してゆけるよう一年一年を大切に、丁寧に経営努力を続けてゆく所存です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



監事
難波江正浩

日本は30年前からつい最近までデフレ状態が続き低成長にもがき苦しんでいます。また我々の病院経営も国の経済状況に依存している事から、同じく大きな試練を迎えてい ると言えます。国力の低下、高齢化社会の到来と

よる認知症に関する講演
や、小生を含めた滋賀医
大軽音楽部OBAによる
ジャズライブなどを催し
たところの患者さんや地域
住民を含めて300名以上の
参加を頂きました。

今年10年目以降も当院
が地域社会に貢献し存続
してゆけるよう一年一年
を大切に、丁寧に経営努
力を続けてゆく所存です。
本年もどうぞよろしく
お願い申し上げます。

の皆様方の御指導を頂きながら、この暴風雨の様な環境にあって、勁草になるべく会員病院一致団結、力を合わせられれば幸甚です。本年もどうぞよろしくお願い致します。

県で専攻医を取得するにあたり必要となる病院の診療科ごとの情報を具体的に知ることができ、大変有意義な時間となりました。これまで私は、研修先以外の病院については名前や立地から漠然としたイメージを抱くのみで、実際にその環境で働くことに対する不安も少なからずありました。しかし、今回の説明会では、各病院で実際に勤務されている先生方から直接お

医療現場では、全国的

の病院で自分がどのように学び、成長することができるのかを現実的にイメージする大きなきっかけとなりました。

また、専攻医と研修医の交流会も非常に印象深いものでした。2、3年先を歩む専攻医の先生方に進路や日々の悩みを相談したところ、経験に基づく実践的で温かいアドバイスをいただき、今後の研修について前向きに考えることができました。

ための専門研修

に残りました。私の研修先には、各診療科に多くの優秀な若手医師がおられます。これまで漠然と成長したいと励んでいましたが、「あの先輩のようになりたい」という具体的な目標像を持てたことで、今自分が何をすべきかが明確になってきたように思います。

さらに、他病院の1年目研修医とともに交流し、多様な考え方やキャリアプランに触られたこと

ます。

令和7年度 臨床研修医の



社会福祉法人恩賜財団
済生会滋賀県病院 初期

曰年から午年へ一脱皮と変化の年から、前進と躍動の年へ。

に急性期病院の経営環境が厳しく、人材確保の難しさも続いています。しかし、どのような状況にあっても、医療の質と安全という「医療の根幹」だけは揺るがせません。

令和7年10月28日、WEB配信にて「滋賀県病院協会 第2回医事研究会」が開催され、司会の立場で参加させていただきました。23医療機関からウェビナー登録・参加をいただき開催させていただいたことに今年度役員として深く感謝いたします。

今回の医事研究会は、県からの新規委託事業「滋賀県骨折予防研修事業」の一環として、「骨折予防について」のテーマで開催されました。

最初に、滋賀県健康医療福祉部医療保険課 国民健康保険係玉幹八木様により、「滋賀県における二次骨折予防の取り組み

木下佳代子
について」の演題で情報発信をいただきました。

対象者は草津市・栗東市
野洲市・長浜市・米原市
で、淡海医療センター
済生会滋賀県病院・県立
総合病院・市立野洲病院
市立長浜病院の5医療機
関様が検診医療機関とし
て協力されています。へ
後このモデル検診のデモ
タ結果による更なる事業
の展開に注目いたしたい
と思います。

次に、社会医療法上
甲友会 西宮協立脳神経

講演は、骨粗鬆症といふ
どんな病気?から始まり、
骨粗鬆症性骨折による
身体機能への影響の詳
明・大腿骨近位部骨折の
地域別発生率や各都道府
県の骨粗鬆症検診率等を
大変興味深い統計結果を
紹介いただきました。工
官協立脳神経外科病院
は、骨折患者さんに對
て急性期の治療に留ま
ず回復期リハ・在宅支

及が進んでいないとの
が聞かれます。この管
料の目的について奥村
は、「骨粗鬆症性骨折
きつかけに、再骨折（
二次性骨折）を防ぐた
の継続的な医療体制を
えること」と説明され
した。骨折を防ぐつ
りは疾病を予防するた
の医療がこれからは重
であります。予防医療
継続的な医療体制につ
て病院の取り組みを考

理事



盟事



卷之三

令和7年度 滋賀県病院協会
第2回医事研究会に参上



令和7年度 滋賀県病院協会 医療安全対策研修会に参加して



滋賀県立総合病院
医療安全管理室
丹野 和美

令和7年11月5日、滋賀県病院協会主催の「医療安全対策研修会(We b開催)」に参加させていただきました。本研修の目的は、医療事故を未然に防止し、医療の安全確保と医療における信頼の確保にあります。研修の講演1は、尾崎恵子先生(滋賀県健康医療福祉部医療安全管理部教授)による「インシデント報告による活用について」の2題の講演が行われました。

講演1では、滋賀県医療安全相談室の運営体制や相談実績、相談事例についてご説明がありました。令和6年度相談件数は694件で過去最多の相談件数を記録し、医療機関別相談件数では病院が多く、病院の内訳は演1は清水智治先生(滋賀医科大学医学部附属病院 医療安全管理部教授)による「インシデント報告による活用について」の2題の講演が行われました。

講演2では、「インシデント報告とその活用」についてご講演をいたしました。言葉の定義、アメリカでの死因において医療事故は第3位であること、日本の医療事故などを通じて医療安全の定義について再認識しました。インシデントの報告では、2015年特定機能病院の医療事故があり、国立大学附属病院医療安全管理協議会では患

者影響(影響レベル3b以上)、R.R.S.・コードブルーの起動、薬剤副作用、と具体的に提示されていることを教示いただきました。特定機能病院の基準ですが自施設の基準の検討の参考にさせていただきました。こうと思いました。また、Safet y IIの視点をどう教示していました。レポートの分析に活かしていくべきだと思います。

このような有意義な研修会を開催してくださった滋賀県病院協会の皆様、講師の先生方に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

令和7年度院内感染防止対策研修会が令和7年12月2日にWEB形式で開催され、当院からは理事長・院長をはじめICUチームの職員が参加し、院内で共有すべき多くの知見を得る貴重な機会となりました。

第一部では、和歌山県立医科大学・感染制御学講座の小泉祐介先生より「ポストコロナ時代の感染症と地域連携」について、和歌山県での実例をもとに問題点と対策が具体的に示され、個々の

人間が増えていくとの話もありました。それは最近の社会を表していると思えます。病院だけではなく地域を表していると思えます。平山係長の話を借りて言うと、病院だけで抱えます繋がり組んでいくこと、必要な支援に繋げることを願っています。

第二部では、国際医療新型コロナの流行を経て診療体制の見直しが進みましたが、一方、世界的な人流増加や細胞性免疫の低下により、コロナ後に経験した各種ウイルス感染症の大流行や新興・再興感染症の脅威がデータを示されました。特に耐性菌の拡大については、和歌山県での実例をもとに問題点と対策が具体的に示され、個々の

換方法の違いについて理解が深まりました。また、地域連携の事例として、コロナ過でのクラスター発生施設への介入やOOO D Aループを活用した小児感染性胃腸炎の集団発生に対し、初動対応から収束までの臨場感のある内容から多くの学びがありました。

令和7年度 滋賀県病院協会 院内感染防止対策WEB研修会を受講して



医療法人マキノ病院
中央検査科
臨床検査技師
長濱 雅

てご講演いただきました。第二部では、国際医療福祉大学大学院の坂木晴世先生より、「現場で活動する感染対策について」お話し頂きました。手指お拭き頂きました。手指衛生では、日本の遵守状況や介入研究の成果が紹介され、アルコール製剤の使用では「乾燥まで15秒以上接触する」ことの重要性を学び、早速実践を始めています。CRB SI対策ではカテーテルの種類別の発生頻度や交

換方法の違いについて理解が深まりました。また、地域連携の事例として、コロナ過でのクラスター発生施設への介入やOOO D Aループを活用した小児感染性胃腸炎の集団発生に対し、初動対応から収束までの臨場感

ある内容から多くの学びがありました。第二部では、国際医療福祉大学大学院の坂木晴世先生より、「現場で活動する感染対策について」お話し頂きました。手指お拭き頂きました。手指衛生では、日本の遵守状況や介入研究の成果が紹介され、アルコール製剤の使用では「乾燥まで15秒以上接触する」ことの重要性を学び、早速実践を始めています。CRB SI対策ではカテーテルの種類別の発生頻度や交

令和7年度入退院支援機能強化事業全体研修会報告 「身寄りの無い高齢者や認知症患者への対応について」「身寄り問題を学んで」



医療法人友仁会 友仁山崎病院
入退院支援室室長
杉本 美帆

私は入退院支援業務に従事して10年以上経ちますが、いつでも身寄りの無い方の入退院支援は困難を感じざるを得ません。ひとたび身寄りの無い方が入院されると、緊急連絡先や保証人の問題が出でます。また退院調整の際には転院や施設入所ができないといった事態も出てきます。これはどこの病院でも同じではないでしょうか。全体研修会のテーマを決める際に、各圏域の入退院支援で困っていることを話し合いましたが、身寄りの無い方の支援が一番に上げられました。

そのため、今年度はみだしのテーマにて開催させていただきました。まず、滋賀県健康医療福祉部医療福祉推進課の平山係長から、身寄りの無い高齢者の入退院支援に関する行政制度について情報提供をいただきました。

桐高先生の講義の中で、「身寄りが無いことが問題ではなく、身寄りが無いことで必要な医療や福祉サービスが受けられないことが問題」との話が一番印象に残りました。先に述べたように身寄りの無い方が入院するといふことの問題が出てきました。身寄りがあつても関わりが薄い

人間が増えていくとの話もありました。それは最近の社会を表していると思えます。平山係長の話を借りて言うと、病院・福祉・行政が一丸となつて取り組んでいくことを願っています。

第一部では、和歌山県立医科大学・感染制御学講座の小泉祐介先生より「ポストコロナ時代の感染症と地域連携」について、和歌山県での実例をもとに問題点と対策が具体的に示され、個々の

人間が増えていくとの話もありました。それは最近の社会を表していると思えます。平山係長の話を借りて言うと、病院・福祉・行政が一丸となつて取り組んでいくことを願っています。

第二部では、国際医療福祉大学大学院の坂木晴世先生より、「現場で活動する感染対策について」お話し頂きました。手指お拭き頂きました。手指衛生では、日本の遵守状況や介入研究の成果が紹介され、アルコール製剤の使用では「乾燥まで15秒以上接触する」ことの重要性を学び、早速実践を始めています。CRB SI対策ではカテーテルの種類別の発生頻度や交

換方法の違いについて理解が深まりました。また、地域連携の事例として、コロナ過でのクラスター発生施設への介入やOOO D Aループを活用した小児感染性胃腸炎の集団発生に対し、初動対応から収束までの臨場感

◆令和7年度 滋賀県公衆衛生事業功労者 公益財団法人滋賀県健康づくり財団 理事長表彰受賞	表彰式・令和8年2月8日(日) 近江八幡市文化会館小ホール 長浜赤十字病院 看護師 柴田 隆嗣氏 角川 昌弘氏
◆令和7年度 滋賀県精神保健福祉協会長表彰受賞	表彰式・令和8年1月15日(木) 滋賀県庁新館7階 大会議室 大津赤十字病院 副院長 兼 感染管理室長 辻 將公氏



令和7年度 第36回滋賀県病院協会ソフトボール大会

今年度は国スポ・障スポ2025が滋賀県で開催されたことにより、時期をずらしての11月開催となった。10月からの週末は毎週雨模様であったが、この日ばかりは清々しい晴天に恵まれた。まさにソフトボール大会日和の中、第36回となる本大会は23病院で熱い戦いが繰り広げられた。

三木会長の始球式を皮切りに、各グラウンドでは優勝を目指した本気のプレーに大いに沸いた。決勝戦は連覇を狙う滋賀八幡病院対豊郷病院で行われ、見事、豊郷病院が優勝を手にし、籠谷事務部会長から優勝旗が手渡された。

開催日：令和7年11月16日(日)
会 場：高島市今津総合運動公園

本大会開催に向けご尽力賜りました事務長部会等関係者の方々、
当日早朝からのライン引きをはじめご準備いただきました方々、滋
賀県ソフトボール協会審判の皆様、そして参加された選手、応援に
かけつけてくださった皆様、本当にありがとうございました。皆様
のご協力のもと、大きな怪我もなく無事に終了できましたこと感謝
申し上げますとともに厚く御礼申し上げます。

来年も本大会の開催を予定しております。日程が決まり次第、順次お知らせさせていただきますので、多くのチームのご参加をお待ちしております。



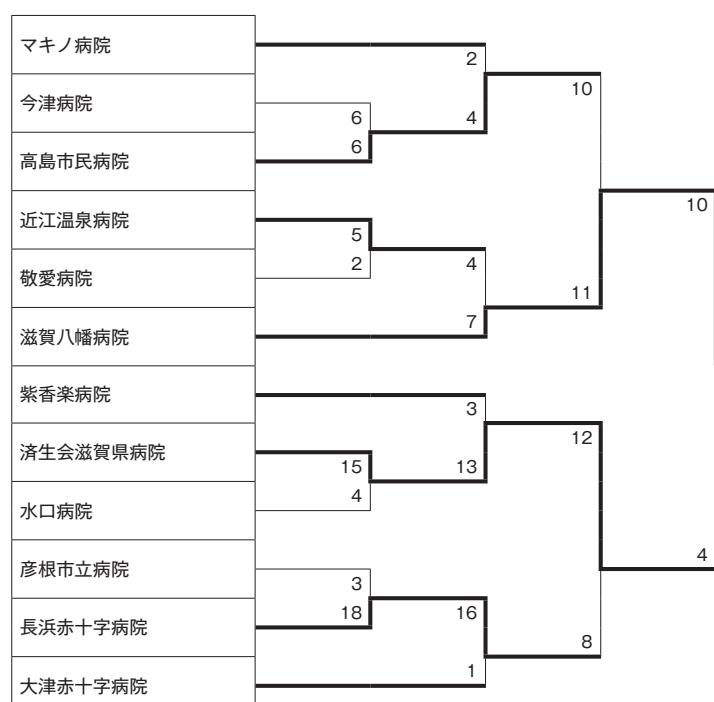
優勝
豐鄉病院



準優勝
滋賀八幡病院



第三位
済生会守山市民病院

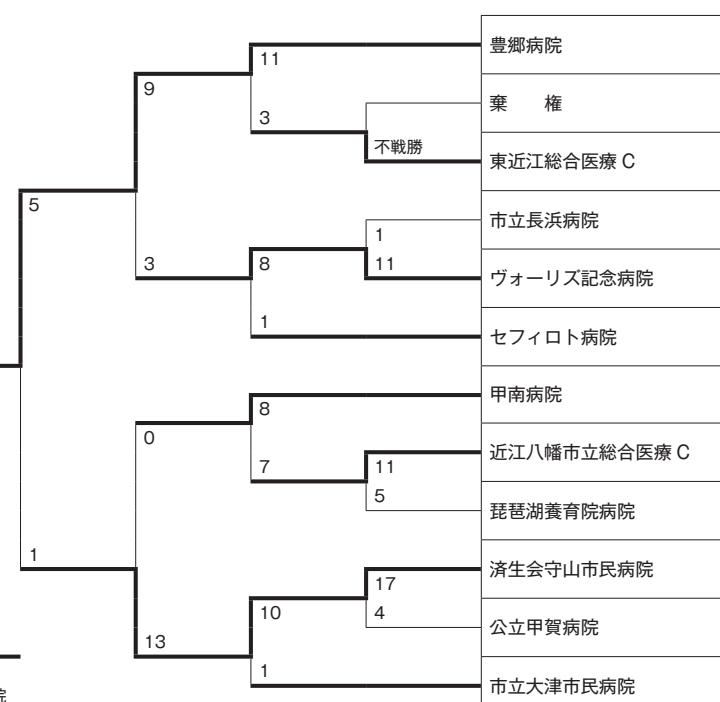


優勝 豊郷病院

準優勝 滋賀八幡病院

2 決勝

第四位 清生会滋賀県病院



新年あけましておめでとうございます

令和8年 元旦



一般社団法人 滋賀県病院協会
(役員一同)